

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第47回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《芸術・音楽・スポーツ分野》

嘉納治五郎の成果と今日的課題

講師：講道館図書資料部長 **村田直樹**先生

【講演要旨】 往時、戦場で用いられた殺傷の技術を、教育の道に止揚した例を、世界に目を向けて探究しても、浅学にして見出し得ていない。柔道は、今日、五輪競技正式種目の一つとして国際的普及を果たしている。国際柔道連盟には約 200 の国と地域が加盟している(ちなみに国際連合は193ヶ国。2017/4月現在)。世界の老若男女が愛敬しているJUDOは、嘉納治五郎によって創始された「日本伝講道館柔道」(正式名称)である。幼少期、身体虚弱だった嘉納伸之助(後の治五郎)は、十代の寄宿舎時代、しばしば上級生にいじめられた。生来の負けず嫌いで人の下風に立つことを嫌った嘉納は、小さい者でも大きな者に勝てると聞いた柔術入門を果たす。世が西洋文明を採り入れ、旧弊を排する風潮の強かった時代、東大生の嘉納が、旧習である武術、柔術を習うなどは、時代に逆らう所業と言えた。しかし、柔術の修行を通して俊英の視点は、術から道へと向かい、遂に柔道を創始するのである。その道を講ずる館を講道館と命名した。21歳5カ月の初夏である。嘉納は学習院始創時代、維新の英雄勝海舟を訪ね、暫く学問に没頭しようか、と質問したことがあった。勝は答える前に反問した。「学者になろうとするのか、それとも社会で事を成そうとするのか」「後者です。その為に暫く必要な学問に集中しようと思います」「それはいけない。それでは学者になってしまう。事を成しつつ学問を為すべきだ」この直言は、若き嘉納の心を深く打った。それ以来、勝の忠言を守り、実際の事柄からものを考え、必要に応じて本を読んだ。後年の遺稿に、「これが自分の行った上に最も効果があった」とある。(嘉納治五郎 嘉納先生伝記編集会、講道館 P.54, 昭和39)こうした実学主義の軸足を置き、体験や実践に即して考え、その上で先行研究を渉猟調査し、自分なりの回答を導き出して事に処するという嘉納の人生態度が出来上がった。「昔の柔術も先生次第で武士の精神を養うことも努めたであろうが、眼目はどこまでも攻撃防御の練習であった。今日の柔道は、最初は形活取を練習せしめて体育と武術を目的とするが、終局の目的は柔道の道を会得し、これを全生活に応用する方法を研究し、これを実行するにあるのである」。(「改造」第17巻第6号、改造社、昭和10年6月。復刻版、嘉納治五郎大系第一巻、本の友社 p.69, 昭和62)何が嘉納治五郎をして柔術から柔道へと向かわせたのか。どんな内容を整備したのか。そして今日、柔道を取り巻く課題とは如何なるものであり、課題解決のためにはどうしたら良いのか等々、斯道研究の興味は尽きない。我が国が生んだ世界に誇る運動・精神文化柔道について拙論を展開する。

【講師紹介】 1949年 埼玉県生まれ。東京教育大学大学院体育学研究科修士課程修了。アイスランド柔道連盟ナショナルコーチ、タイ王国政府文部省体育局客員教授、全日本柔道連盟評議員等を経て、公益財団法人 講道館図書資料部長、公益財団法人 全日本柔道連盟参与、日本武道学会副会長。国際柔道連盟公認審査員、全日本柔道連盟公認 A 指導員、全日本柔道連盟公認形 A 審査員、国際武道大学非常勤講師。講道館柔道八段。2014年 秩父宮記念スポーツ・医科学賞 受賞。

著書に、『スポーツと身体運動の科学的探究』(美巧社)、『柔道大辞典』(アテネ書房)、『嘉納治五郎臨陣に学ぶ』(日本武道館)、『Mind over Muscle』(講道社インターナショナル 編著)、『Jigoro Kano and the Kodokan』(講道館 編・監修)、『柔道の国際化—その歴史と課題』(日本武道館)、『現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか』(ミネルヴァ書房 共著)等の他多数。

日時：2017年5月11日(木)18:00～20:30
会場：公益財団法人国際高等研究所
参加費：2,000円(交流・懇談会費用を含む)
定員：40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)
申込：裏面のURLからお申込みください
詳細：<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>
締切：2017年5月7日(日)

